

第66回

全国高等学校PTA联合会大会
千葉大会

式辞・祝辞



「再発見！愛」
～今こそ信じよう愛の絆～

式 辞



一般社団法人 全国高等学校P T A連合会
会 長

さ の も と ひ こ
佐野 元彦

皆さん、おはようございます。国際展示場会場で、映像配信でご覧をいただいている皆さま方、おはようございます。一万人を超える参加者のため、一つの会場で開催することができなかつたことを、大変心苦しく思っております。お許してください。

第66回全国高等学校P T A連合会大会千葉大会がいよいよ始まります。全国から、このように大勢のP T A会員の皆さま方にご参集いただいたことに対し、まずもって心より感謝を申し上げます。また、公務ご多忙の中、文部科学大臣 松野博一様、千葉県知事 森田健作様、千葉市長 熊谷俊人様をはじめ、日ごろ、私たちP T A活動を、ご支援ご指導いただいている皆さま、そして、本大会の開催にご尽力ご協力をいただいた皆さま、多数のご来賓の皆さま方に、心から厚く御礼を申し上げる次第であります。

さて、本大会のテーマは、「再発見！愛 ～今こそ信じよう愛の絆～」です。今ほど、大木実行委員長から、愛の持つ意味についてお話がありました。大会の趣旨を拝見しますと、そのテーマの意味するところは、子どもを家庭や地域の宝と捉え、深い愛情を注いできたわが国。しかしながら、社会の在り方や価値観の大きな変化に伴い、子どもをみんなで育てようとする

気持ちが薄らいできた状況を憂い、家庭と地域の教育力を再考し、学校の教育力と手を携えて、社会総がかりで子どもを育てようという呼び掛けであります。

折しも、本年4月には、高大接続システム改革に関する提言のまとめ案が発表され、初等・中等教育の最終段階である高校教育、社会の要請に応じて、それをさらに伸ばす、高等教育としての大学教育、この二つを大きく変える方向に動きだしました。少子高齢化・高度情報化・グローバル化の進展という現状に加えて、第4次産業革命とも言われる人工知能A Iやロボット技術、さらには、物と物をインターネットで結ぶIoT、それらの発達に伴って、社会の大きな変容が予想されます。

皆さま方もよくお聞きになったかと思いますが、人工知能、IoT、そして、ロボット技術の進展によって、今、人間が行っている仕事の50%は、それらに取って代わられるだろうと予測されております。果たしてそのようなとき、人は、私たち人間は、何をすべきなのでしょう。

今回の提言は、このような過去の延長線上にはない新たな状況や課題に挑戦し、社会を適応させ、発展させていく人とは、どのような力を備えた人なのかという問いに対する答えと言っ

てもいいでしょう。

その力とは、知識・技能の習得はもちろんのこと、目の前に次々と現れる新たな課題に対して、身に付けた知識・技能を駆使して、思考し判断する力、主体的に挑戦しようとする態度、多様な人たちと協働して取り組もうとする姿勢と、それを可能にする表現力、すなわち、社会がどのように変化しても、柔軟に対応し、創造性を持ってよき方向に変えていく真の生きる力を身に付けた自立した人を育てていこうということだろうと考えます。

また、評価についても、これまで重視されてきた知識技能の習得のみならず、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性、さまざまな多様な力を多面的に評価する方向に変えようとしています。日本の将来を左右するようこの壮大な取り組みを成功させるためには、学校のみならず、家庭・地域の協働が必要であり、まさに社会総がかりで取り組むことが重要です。

私たちPTAは、学校・家庭・地域を結ぶ存在だと標榜（ひょうぼう）してまいりました。今こそ言葉だけで終わらせることなく、全国津々浦々で展開されている各学校のPTA活動が、社会総がかりの基点となるよう、行動で示していくときがまいりました。

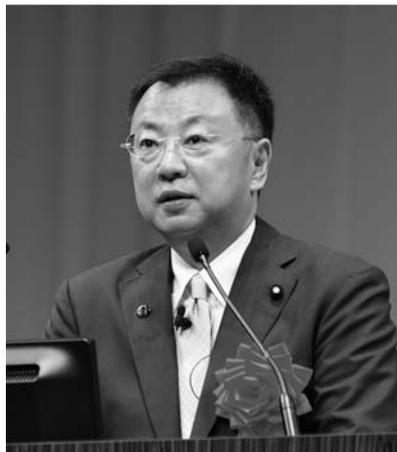
私たちは、「P」親や家庭と、「T」教職員・学校が、協働する団体です。両者の願いは、子どもたち一人ひとりが自立した人間となって自己実現を果たし、幸せな人生を送ってくれることであり、子どもたちの自立を支援しようという思いを同じくする同士であります。「P」と「T」がしっかりとベクトルを合わせ、手を携え

て、子どもたちの自立を支援する人、「自立支援者」として活動してまいりましょう。

選挙権年齢の18歳への引き下げに伴う政治的教養教育、経済的困窮家庭の子どもたちの就学・進学問題などの新たな課題に対しても、この自立を支援するという視点を取り入れることで、きっとよき解が見つかるものと信じております。

本大会に参加された皆さま方が、2日間にわたる研究協議を通じて、多くの学びと気づきを得て、今後の各学校PTAの活動のさらなる充実・発展に生かしていただくことを心から念願し、式辞といたします。2日間、どうぞよろしくお願いいたします。

祝 辞



文部科学大臣

まつ の ひろ かず
松野 博一 様

本日、第66回全国高等学校PTA連合会大会千葉大会が、このように盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

本大会の開催に当たり御尽力されました、一般社団法人全国高等学校PTA連合会および千葉大会実行委員会の皆様方に深く敬意を表します。私も千葉県選出議員でありまして、全国から御来場いただきました皆様方に、心から歓迎の意を表します。

先日、リオデジャネイロオリンピック大会が閉幕しましたが、子供たちには、選手の活躍を通して、スポーツの素晴らしさ、努力することの大切さなどを感じてもらえたものと思います。

教育は、未来への先行投資であり、教育再生なくして我が国の成長はありません。一億総活躍社会の実現と地方創生の推進に向けて、学校と地域が一体となって連携・協働し、子供の成長を支え、学校を核として地域社会が活性化するように、「次世代の学校・地域」の創生を進めてまいります。

さらに、情報化やグローバル化が急激に進展する時代を、たくましく、しなやかに生きていく人材を育てていくことが急務です。このため、今後の学校教育の充実に不可欠な「学習指

導要領改訂」に取り組んでまいります。その際、学習内容は削減せず、質の高い理解を実現するための改善を行ってまいります。

誰もが家庭の経済事情に左右されることなく、希望する質の高い教育を受けられるよう、幼児期から高等教育段階まで切れ目のない形で教育費負担軽減を図ります。特に給付型奨学金につきましては、文部科学省として、引き続き、具体的な制度設計に向けた検討を進め、速やかに制度が導入されるよう努めてまいります。

皆様方におかれましては、日頃から高等学校におけるPTA活動を通じ、学校、家庭、地域の架け橋として、子供たちの健全育成に御尽力いただいておりますことに、深く感謝を申し上げます。

結びに、今回の大会が実り多いものとなり、全国高等学校PTA連合会の益々の御発展と、御参集の皆様方の一層の御活躍を祈念申し上げます。お祝いの言葉といたします。おめでとうございます。



千葉県知事

もり た けん さく
森田 健作 様

お招きを賜りまして、誠にありがとうございます。皆さまにおかれましては、常日ごろから青少年育成にご尽力を賜りまして、心から敬意を表するところでございます。

皆さん、おはようございます。ようこそわが千葉県においでくださいました。お待ちしております。

皆さんね、教育というのは大事ですね。でも、今は、若者、言うならば、そういう子どもの周りの環境は、非常に厳しいところがあります。いじめ、不登校、引きこもり。

私も、これを何とかしなきゃいかんでしょう、皆さん。それで、いい特効薬はないか、ヒントはないかと、私もずっと考えました。あったんですよ。皆さん、私たちだって、小学校、中学校、高校時代があったじゃないですか。黙ってこんな大きくなったわけじゃないですよ。じゃあ、そのときに自分を戻して、私たちがどんな言葉に落ち込んで、どんな言葉で励まされ、どんな言葉にやる気が出たか。

私は、中学校3年、これは初めのころかな。団塊の世代でございます、私。一クラス58名、10クラスありましたよ。みんな勉強しました。それで、私も親しい友人が3人いました。2年生のときと打って変わって勉強して、本当にい

い成績になった。私だって勉強したんですよ。

ところが、残念なことに、私は、どうもうまくいかなかった。学校の先生からは、私は、本名を鈴木栄治というのですが、「鈴木、おまえ、駄目だよ、おまえ。剣道ばかりやってたって。なあ、もっと勉強やれ。落ちるぞ」とかね。家に帰ったら、両親に怒られ、そして、もう最後のほうになって、父親に1時間、懇々と私は説教されました。

それで、私は、もういいやと。おれはどうせ勉強できないんだよと。おれなんか、この家にいたって邪魔じゃねえかと。ああ、いいや、もういいや、もう、おれは、家を出て行ってやる。おれみたいなのは死んだほうがいいんだと、私は自暴自棄になりました。そして、あるとき、私が勉強もせずに、縁側にたたずんでおりました。母親が来たんですよ。「栄治な、いいか、人は皆、必要があって生まれてきたんだ。おまえにだって、あのお友達が持っていない、おまえしか持っていないいいところが必ずある。それを見つけて頑張れ。通信簿に書いてあったじゃないか。鈴木くんは、明るく元気で、そして、スポーツやって、クラスのリーダーになって頑張っている。今のおまえは何なんだ。いいか、成績は、真ん中からちょっと上ぐらいでいいか

ら、な。前のように頑張れよ」と。

私は、はっきり言って、ほっとしました。そうだよなと、よーしと。あれだけ落ち込んでいた私が、あっという間に、また元の鈴木栄治に戻って、元気になりまして、剣道も始めました。実は、それが、私の将来の大きな扉を開いたんでございます。

私が俳優になる。当時、歌手の黛ジュンさんの夕月という歌が大ヒットして、それで相手役募集、私が合格したんです。なぜ合格したか。審査委員長は言いました。「鈴木くん、君の元気な声がいいじゃないか。明るくていいじゃないか。スポーツマンじゃないか。松竹が目指しているスターだ」。そして、またその後、テレビで、青春ドラマ「おれは男だ！」というので、

主役に選ばれたのも、同じことでもございました。

ですから、私は思うんです。私は、あのとき、母親のあの言葉がなかったら、もっともっと、みんなに勉強しろ、勉強しろ、おまえは駄目だ、駄目だと言われていたら、今の私はありません。人は、それぞれ、顔が違うように、人は、それぞれ持っているものが違うんです。その持っているものを、しっかり私たちが見つけてあげて、それを私たちが育ててあげる。

わが千葉県、個性を伸ばす教育に今一生懸命取り組んでいるところでございます。子どもたちは、私たちの宝でございます。私たちの英知を集めて、わが千葉県、日本国のために頑張ろうではありませんか。ありがとうございます。





千葉市長

くまがい としひと
熊谷 俊人 様

皆さま、おはようございます。千葉市長の熊谷です。森田知事の熱弁の後にあいさつ、少しやりづらい感じもいたしますけれども、まずは、全国より、ようこそ千葉県千葉市にお越しをいただきました。97万人の市民を代表して、心から歓迎を申し上げます。そして、何より、今日、この後、表彰をお受けになられます皆さま方をはじめ、それぞれの皆さま方が、地域において青少年の健全育成、そして、また、学校と地域をつなぐ貴重な役割を果たしていただいていることに、心から敬意を表します。

先ほど来、子どもをめぐる環境の変化というような話もありますが、そうした中で、PTA活動を続けていくこと、もともとPTA活動、大変活動量が多い団体でもございますので、大変なこともあるかと思いますが、今、チーム学校と言われたり、そして、また、地域と学校と家庭をつなぐ役割の重要性があらためて指摘をされてきている中で、原点であるPTAの役割の重要性というのは、今まで以上に増えているものというふうに思います。

よく子どもたちに、主体的に行動してほしいと、そういうようなことを言います。特に今年の夏は、参議院選挙があって、そして、18歳選挙権が生まれて、そして、主権者教育というのがありました。私たち千葉市においても、この学校の中で、どのように主権者教育を行うのか、

さまざま議論がありましたが、一番重要なことは、何といても、政策を見比べるよりも、その前に、自分たちの地域、自分たちのことについて、主体的に考えて行動するという、この原点の気持ちを大事にしなければいけないということ、強く教育委員会と一緒に確認をしてまいりました。

そういう意味では、ただ学校に子どもを通わせる、教えるだけではなくて、主体的にそこに関わっていく。そして、学校がある地域とも関わっていく、そうした主体的に行動する皆さま方の背中こそが、恐らく最も重要な、私は主権者教育にほかならないと、そういうふうに思っております。どうぞ、これからも、子どもたちに素晴らしい背中を見せていただきたいと思います。

そして、せっかく千葉にお越しをいただきましたので、千葉の紹介を、森田知事に代わって行いたいというふうに思いますが、私からは、ひとつ、「千葉」という、この2文字についてお話をしたいと思います。この「千葉」という地名の持つ意味合いですけれども、これは、まずわれわれ千葉市のことについてご紹介をするところから始めたいと思います。

千葉市は、今年で、千葉開府890年を迎えました。890年前の1126年に、亥鼻という県庁のある地に、千葉常重という武将が居を構えてから

千葉の都市としての歴史がスタートいたしました。

そして、この千葉常重の息子が、千葉常胤であります。この千葉常胤という人物は、源平時代が大好きな方はご存じの方がいらっしゃると思いますが、一般的にはそれほど知られていないかと思えます。

皆さま方が一番よくご存じなのは、何といっても源頼朝だと思いますが、源頼朝は、伊豆で拳兵をした後、一度、大きく敗れています。そして、この千葉県、南房総に船で逃げてまいりました。そのとき、供は10名ほどだったというふうに言われております。そこから、再起を期して、千葉の武士に助けてくれという、そうした助けを求めて、そして、いち早く味方をしたのが、この町を治めていた千葉常胤であります。

そして、千葉常胤が、源頼朝を迎え入れて、源氏ゆかりの地である鎌倉に行くべきだと進言をして、わが国最初の本格的な武家政権である鎌倉幕府が誕生いたしました。源頼朝からは、千葉常胤は父とも思うという、こういうようなかたちで、大変大事にされて、東北から九州まで広大な所領を治めました。

実は、東北で千葉さんという名前が大変多いのは、奥州藤原氏を征討する際に、東海道軍総大将で千葉常胤が行き、そして、子どもたちがたくさん東北の町を開いたからに起因しております。例えば、東北出身で有名なのは、五千円札の新渡戸稲造であります。新渡戸稲造も千葉氏であります。武士道を書いて、世界中に武士の存在を知らしめたのが新渡戸稲造であります。また、剣道を確立した千葉周作、これも、千葉の末裔（まつえい）であります。

このように、日本で最初の武家政権を起こし、そして、また、近代剣術を確立し、そして、世界に「武」の存在を知らしめたのが、われわれ

千葉の千葉一族でございます。

実は、この皆さま方がいらっしゃる幕張、この幕張という地名というのは、源頼朝を千葉常胤が迎え入れるときに幕を張ったという、こういう言いわれと言われております。もう一つのいわれは、「馬加（まくわり）」、馬を加えると書いて、馬加が幕張になったという説もございますが、この馬加というのは、これは、千葉の一族の名前、この地を治めていた一族の名前でございます。

こうしたかたちで、千葉というのは、「武」というものに大変関わりのある、そして、また、源頼朝を助けたように、誰かが困ったときに助けてきたそういう町、地でございます。

どうぞ、私たちは、あらためてそうした日本の誇るべき「武」であり、そして、また、弱きを助けるという、そうした気持ちを大事にする都市として、これからも歩み続けたいというふうに考えておりますので、ぜひ、それぞれの地域にお戻りになった際、「千葉」というこの2文字というのは、そういう歴史的な名前らしいよというふうに言っていただければ大変ありがたいと思えます。

いろいろ申し上げてしまいましたけれども、結びになります。どうぞ、この今日、明日、分科会も含めた議論が大いに活発に盛り上がり、そして、それぞれの地域・学校・家庭において、貴重な考えが持ち帰られて、それぞれの地域で発展されることを心から祈念をし、そして、皆さま方それぞれのPTA活動が大いに盛んになることを心よりご祈念を申し上げまして、開催都市を代表しての歓迎のあいさつに代えさせていただきます。ようこそお越しをいただきました、ありがとうございます。